

外務省説明資料

映画に関する海外展開支援・文化交流支援施策

外務省が所管する(独)国際交流基金では、文化芸術交流事業、文化のWA(和・環・輪)プロジェクトによる交流事業を実施。

東京国際映画祭との連携交流事業



©2016TIFF

日本・アジア (平成26年度より)

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、東京国際映画祭を通じて、アジアの才能を海外へ発信し、日本を含むアジアの人々がお互いのことをよく知り合い、共感や共生の意識を育んでいくことを目指す。

- ◆ アジア映画紹介部門設置
- ◆ アジアの映画関係者や映画バイヤー・セラー等の招へい
- ◆ 国際交流基金アジアセンター特別賞の授賞
- ◆ アジア3か国の監督によるオムニバス映画製作

JFF(Japanese Film Festival:日本映画祭) アジア・パシフィック ゲートウェイ構想



©2008「おくりびと」製作委員会

アジア・大洋州 (平成28年度より)

アセアン諸国を主対象として日本映画祭を開催。アセアン全体での日本映画への興味・関心を喚起し、各国での認知度を向上させ、アジア・パシフィック市場と日本映画との包括的な架け橋を担うプラットフォームの構築を目指す。

- ◆ 対象国の日本映画祭のネットワーク強化
- ◆ ファン参加型PRイベント実施
- ◆ オンラインプラットフォームなどを連動させ、「日本映画ブランド関心層」を獲得

「文化のWA(和・環・輪)プロジェクト～知り合うアジア～」

芸術文化の双方向交流事業～文化芸術・知的交流分野における協働作業と成果発信(映像部門)



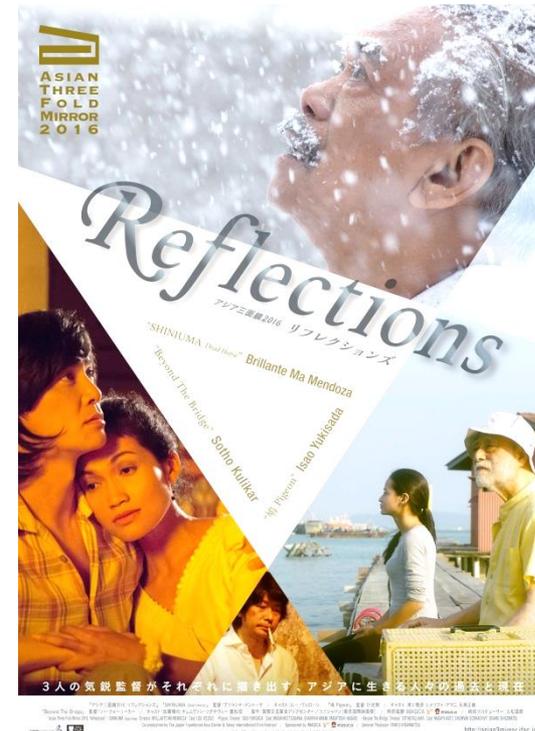
<事業例>

■ アジアセンター×東京国際映画祭 アジア映画交流事業(継続中)

アジア最大級の国際映画祭との連携

アジアの映画交流プラットフォームを強化・発展

- アジア映画を特集上映する「CROSSCUT ASIA」部門新設
 - 第1回 「魅惑のタイ」特集
 - 第2回 「熱風！フィリピン」特集
 - 第3回 「カラフル！インドネシア」特集
- アジア各国から計100名程度の映画関係者を招聘
- 「アジアの未来」部門 国際交流基金アジアセンター特別賞創設
 - 第1回 ソト・クォリーカー監督(カンボジア)受賞
→ 多数の国際映画祭に招待, 日本で公開上映
 - 第2回 デグナー(徳格娜)監督(中国)受賞
 - 第3回 アランクリター・シュリーワースタウ監督(インド)受賞
- アジア・オムニバス映画製作シリーズ「アジア三面鏡」
 - 第1弾となる『アジア三面鏡2016:リフレクションズ』完成, 平成28年の東京国際映画祭でワールドプレミア上映



「文化のWA(和・環・輪)プロジェクト～知り合うアジア～」

芸術文化の双方向交流事業～文化芸術・知的交流分野における協働作業と成果発信(映像部門)



JAPANESE FILM FESTIVAL

<事業例>

■ JFF (Japanese Film Festival : 日本映画祭) ゲートウェイ構想 アジアに向けた新たな日本映画市場を創造する日本映画発信プラットフォーム事業の始動

H28年度実施概要

1. JFFネットワーク強化

- 実施国 フィリピン、シンガポール、マレーシア、オーストラリア、カンボジア、インドネシア(新規)、ラオス(新規)、ベトナム、タイ
- 目標観客数 約10万人
- 主催 国際交流基金
- 協力 東京国際映画祭
- 上映作品 『家族はつらいよ』『クリーピー』『殿、利息でござる!』『モヒカン故郷に帰る』『Tsukiji Wonderland』『ちはやふる上の句&下の句』『あん』『心が叫びたがってるんだ。』を共通作品とし、他多数
- 派遣映画人(監督・俳優)
原田真人監督(フィリピン・7月)、樹木希林(マレーシア・9月)、
西川美和監督、本木雅弘(オーストラリア・11月)、
野村周平(インドネシア・11月)、加藤雅也(タイ・2月)他

2. PRイベント開催

1年間の集大成として、2月にはタイで『この世界の片隅に』の配給プレミアイベントを含めた大々的なイベントを予定

3. オンラインプラットフォーム開設

1メインサイト(日本語/英語)及び9ローカルサイト(現地語/英語)

